

大阪府立信太高等学校 令和3年度学校教育自己診断報告

信太高校学校教育自己診断委員会

＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

＜ 実施時期 ＞

令和3年12月2日～12月20日

＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	724名	730名	99.2% (+5.2)
保護者	81名	730名	11.1% (-27.9)
教職員	60名	60名	100% (±0)

※令和3年度より保護者の回答方法をマークシートからWEB上のアンケートシステムに変更

＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。生徒への「信太高校体験入学、説明会への参加」「部活動への参加」「所属コース」に関する設問の回答は最後の資料をご覧ください。

報告書では各設問を、

1. 学校運営・環境
2. 教育相談・人権
3. 学校生活
4. 学習・体験
5. 進路指導・生活指導
6. 特別活動・その他

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A+Bの%』です。

資料では設問毎にA B C Dの割合（%）を示していますが、未回答、小数第2位以下の四捨五入等により、合計が100%にならない項目があります。

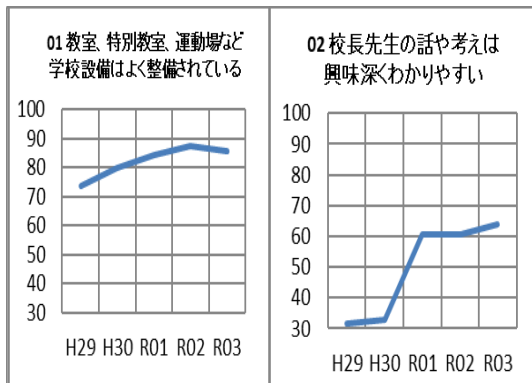
1. 学校運営・環境

<評価>

生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

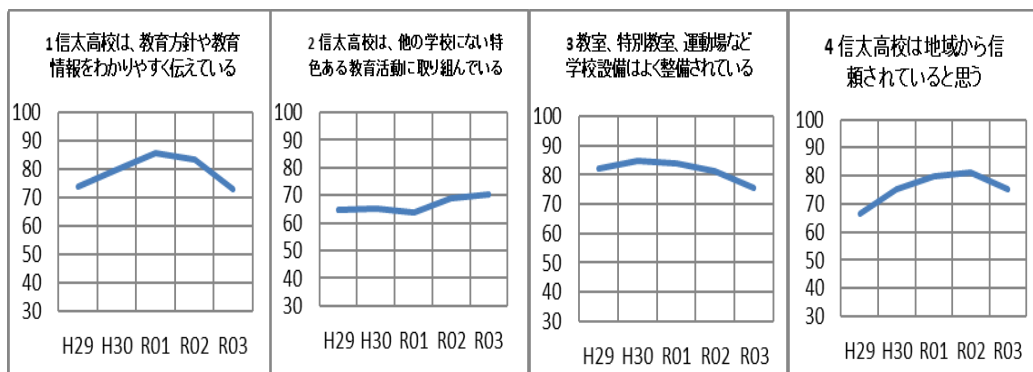
現1年生 (1回 41.0%・2回 14.1%・3回以上 0.9%) 計 56.0%

- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 85.7%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 63.7%



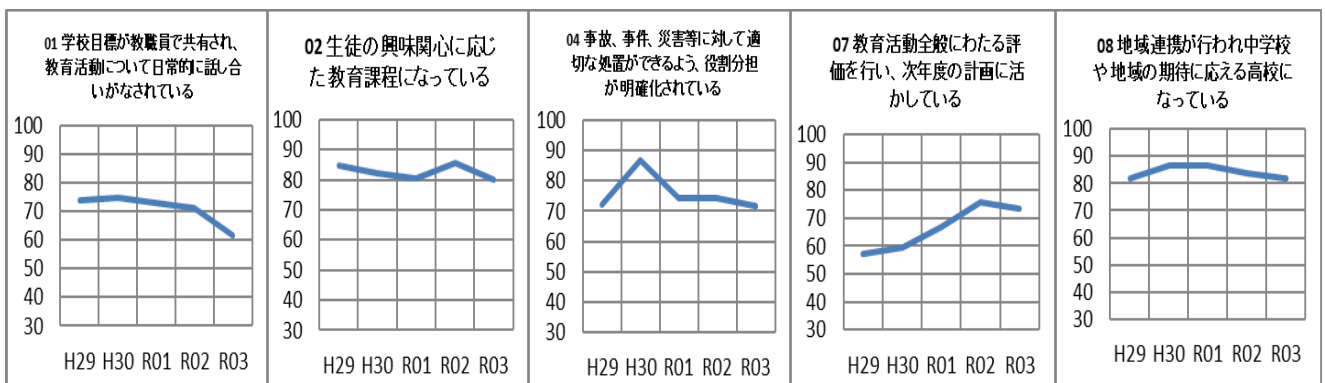
保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 72.9%

- ・信太高校は、他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 70.4%
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 75.4%
- ・信太高校は地域から信頼されていると思う 75.3%



教職員・学校目標が教職員で共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている 61.7%

- ・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 80.0%
- ・事故、事件、災害等に対して適切な処置ができるよう、役割分担が明確化されている 71.7%
- ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 73.3%
- ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 81.6%



<分析>

- ◇「教室、特別教室、運動場などの学校設備」の項目では、生徒、保護者ともに過去 5 年間で初めて減少となった。各教室のプロジェクターや無線ルーターの設置が完了し日常的に授業等に活用しているが、それは特別なものではなく、一般的には当然の設備であり、ようやくこちらの準備が追いついてきた状況であるといえる。
- ◇「他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」の項目では、1.5 ポイント増加した。スポーツ科学専門コースや共生推進教室をはじめとして、今後も本校独自の取り組みを充実させたい。
- ◇「地域との関わり」の項目では、保護者、教職員ともに減少となった。コロナウィルスの影響で交流機会の減少が原因であると考えられるが、地域住民への挨拶励行など、小さな事でもできることを着実に実行していくという共通認識が必要である。

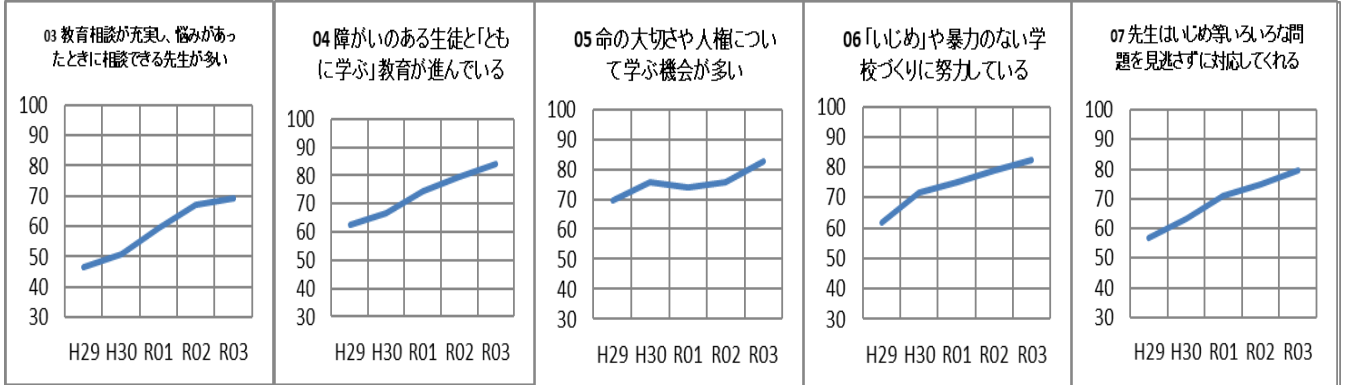
<重点目標>

入学者における体験入学や学校説明会への参加者数の減少は、今年度の志願者数減との結びつきが考えられる。したがって、今後体験入学や学校説明会の充実を図り、説明会への参加者数の増加をめざし、より多くの中学生に本校の魅力を伝えていきたい。今後も引き続き、本校の特色について明確化することを重点においていくことが必要である。

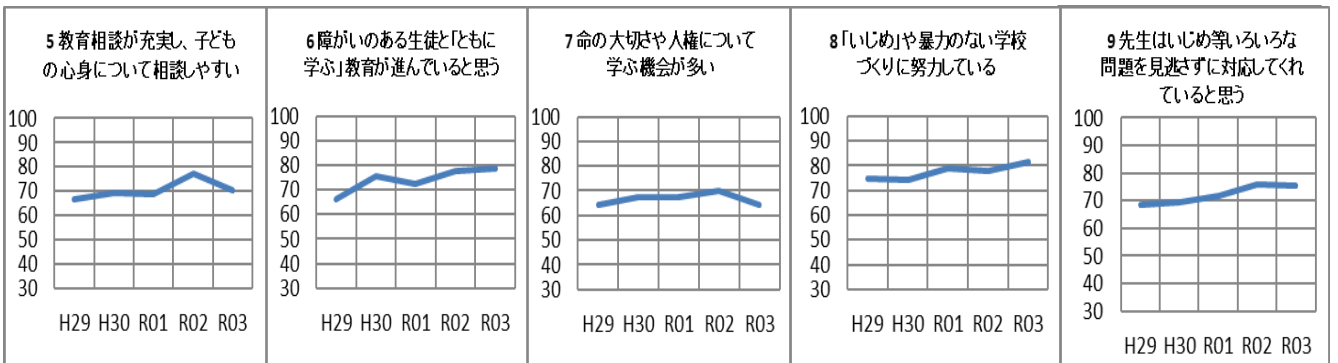
2. 教育相談・人権

<評価>

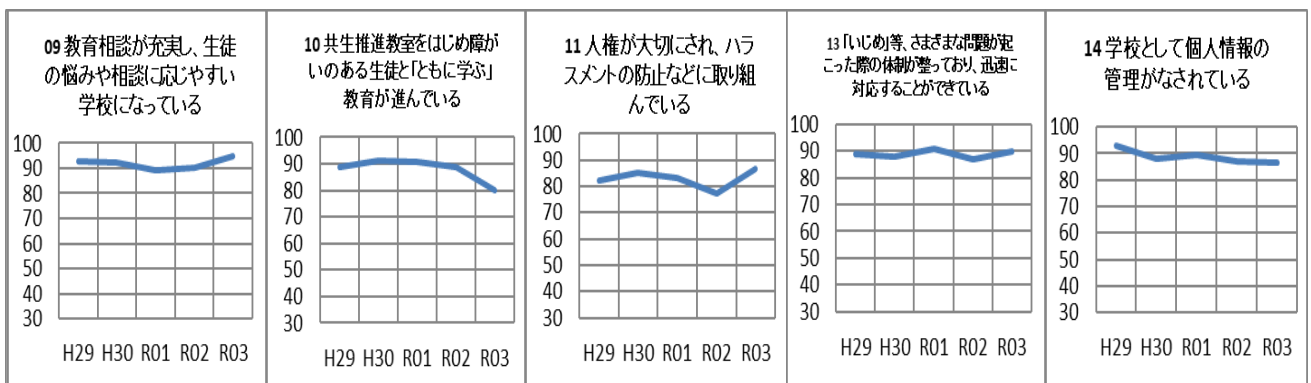
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	69.2%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	84.2%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	82.8%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	82.5%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	79.4%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	70.4%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	79.0%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	64.1%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	81.5%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	75.3%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	95.0%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	80.0%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	86.6%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	90.0%
・学校として個人情報の管理がなされている	86.7%



<分析>

- ◇「教育相談が充実し、悩みがあったときの相談」の項目では、生徒は2.0ポイント増加したが、保護者は6.7ポイント減少し例年並みとなった。本校では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが配置されており、その助言をいただきながら教育支援委員会を中心に教職員で対応する体制をとっている。今後も定期的に生徒・保護者へカウンセリングの機会を周知する必要がある。
- ◇「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる」の項目では、生徒は4.8ポイント、保護者は1.2ポイント増加した。今年度で共生推進教室が設置されてから8年目を迎え、クラスでのかかわりや学校行事等を通して生徒・保護者の理解が深まってきた。
- ◇「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」の項目では、保護者は5.9ポイント減少したが、生徒は7.2ポイント増加しており肯定的に感じている。人権学習では人権教育推進委員会が中心となり、命の大切さや人権について、主体的に問題を発見し解決ができる力が身につくように立てた計画のもと、全体での講演会や各学年での授業を行っている。今後も継続していきたい。
- ◇「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」の項目では、生徒は3.6ポイント、保護者は3.4ポイントの増加となった。いじめ防止対策委員会を中心に、毎年いじめアンケートを実施し、教職員が聞き取りを徹底する体制をとっている。

<重点目標>

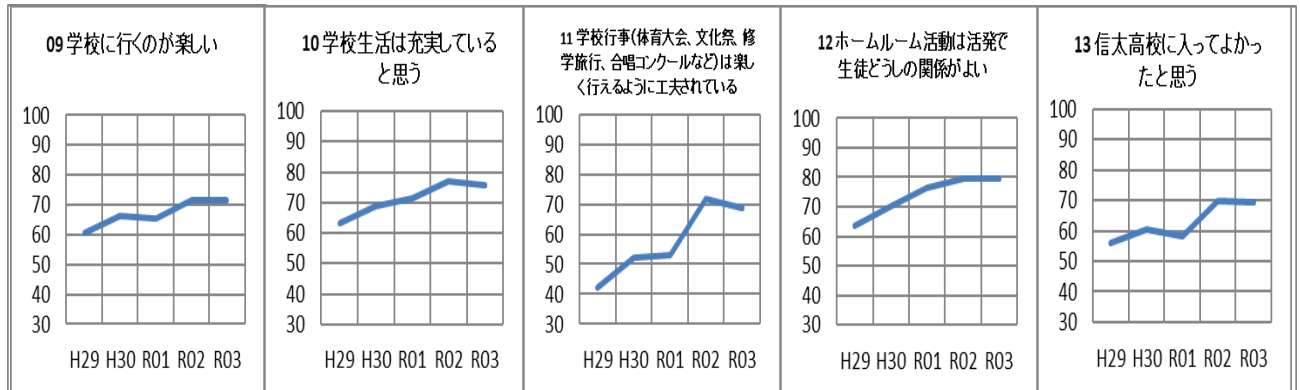
昨年同様、教育支援・教育相談体制については、肯定的回答が多くみられた。昨年度大幅に増加した項目も多く、ほぼ例年並みまたは例年に比べると高い数値を示している項目が多い。今年度も、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校づくりに努める。

人権学習については、3年間を見通した授業計画を実施し、「人権」に対する意識が着実に高まっている。今後も他者の存在に寛容であり、多様な価値観を互いに認め合って生きていけるような取り組みを充実させていく。

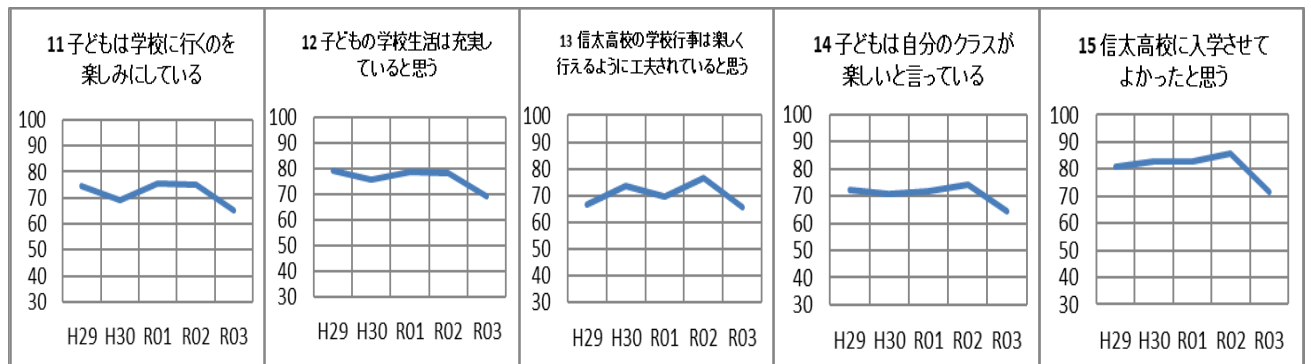
3. 学校生活

<評価>

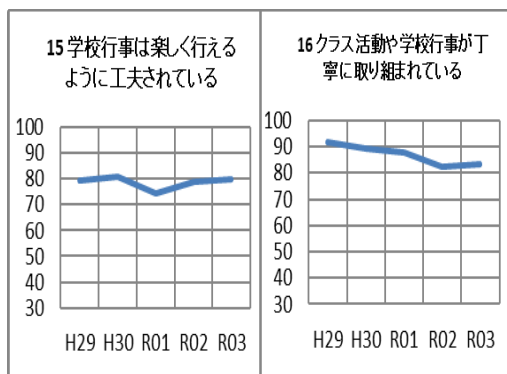
- 生徒・学校に行くのが楽しい 71.5%
- ・学校生活は充実していると思う 75.6%
- ・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている 68.9%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 79.6%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 69.2%



- 保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 65.4%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 69.1%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 65.4%
- ・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている 64.2%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 71.6%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 80.0%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組みられている 83.3%



<分析>

- ◇生徒については、ほぼすべての項目で近年増加傾向にあるが、昨年度と比べると、全体的に横ばいとなった。
- ◇保護者については、昨年度と比べると、全体的に大幅減少となった。特に「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」の項目では 11.0 ポイント減少、「信太高校に入学させて良かった」の項目では 14.1 ポイント減少した。
- ◇教職員の「クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている」の項目では、近年減少傾向にあったが、昨年度と比べると横ばいとなった。コロナウィルスの影響で行事が延期や中止となったものもあった。感染対策と実施内容の変更、縮小がこの結果に大きくかかわっていると考える。生徒が安心して楽しめるように引き続き対策を検討していく必要がある。

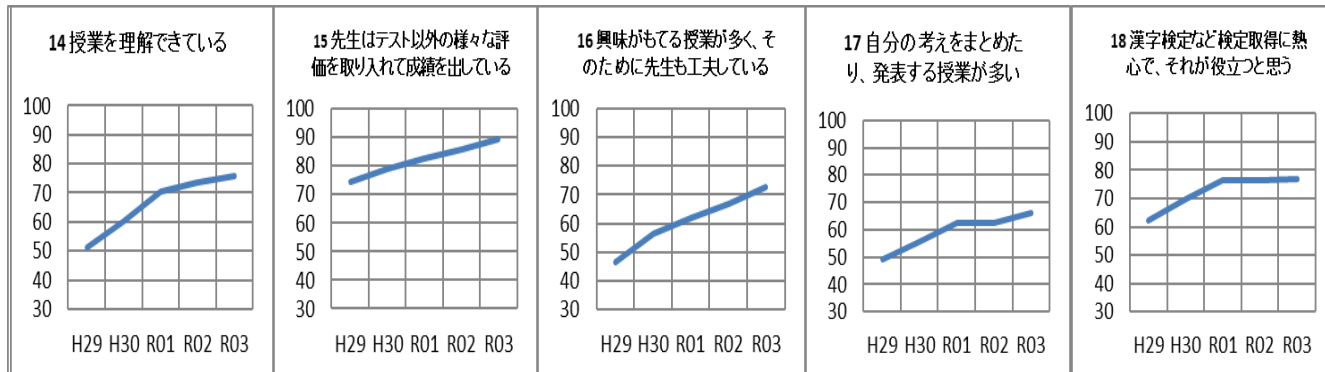
<重点目標>

全ての生徒が、楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにすることは学校として重要である。そのために保護者、教員等が普段から十分に連携を取りながら、今後ともより一層の工夫をしていくことが必要である。また、生徒主体の学校行事、生徒主体の学級運営等、生徒が中心となった学校運営を推進することで、より生徒が達成感や充実感を得ることができるようにする。

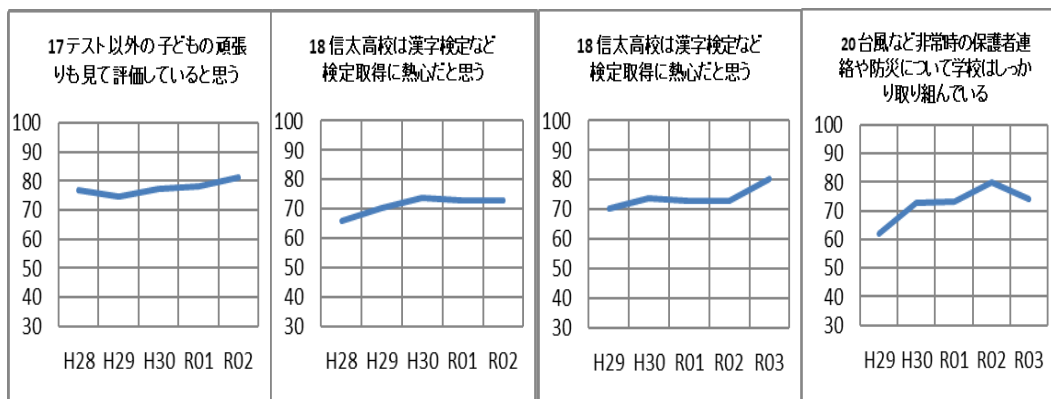
4. 学習・体験

<評価>

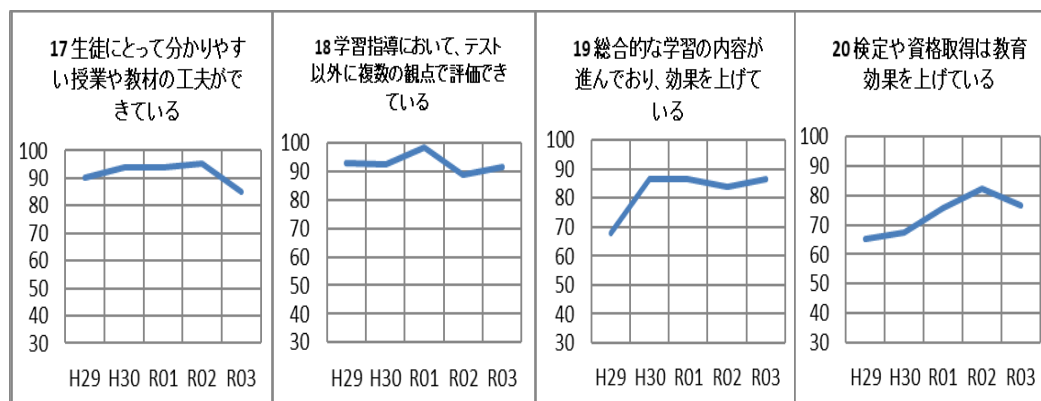
生徒・授業を理解できている	(3年 77.9% 2年 76.3% 1年 72.2%)	全学年	75.6%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			89.4%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			72.7%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			66.0%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			76.8%



保護者・子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている		55.5%
・テスト以外の子どもの頑張りも見えて評価していると思う		82.8%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う		80.2%
・台風など非常時の保護者連絡や防災について学校はしっかり取り組んでいる		74.1%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができている		85.0%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている		91.7%
・総合的な学習の内容が進んでおり、効果を上げている		86.7%
・検定や資格取得は教育効果を上げている		76.7%



<分析>

◇生徒については、すべての項目において増加し、ほとんどの項目で過去最高の数値となっている。

◇「授業を理解している、わかりやすい」の項目では、生徒は 2.2 ポイント増加しているが、保護者は 5.8 ポイント減少している。教職員の「生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができている」の項目では 10.2 ポイントの大幅な減少かつ、過去 7 年間で一番低い数値となった。昨年度から続くコロナウィルスの影響によって、教育活動が断続的に制限され、その対応や調整のため授業準備に割く時間が以前より取りにくくなっていると考えられる。

◇「テスト以外での評価」の項目では、生徒は 3.5 ポイント、保護者は 1.3 ポイント、教職員は 3.0 ポイントの増加となった。来年度より導入される観点別評価の実施に向けても、各教科で試行および検討を行っていることもその要因の一つだと思われる。また、検定や体験などの学校の取り組みについても、保護者からの回答は肯定的な意見が過去最高の数値となっており、さまざまな面からの学習への動機づけ、サポート体制が評価されていることがうかがえる。

<重点目標>

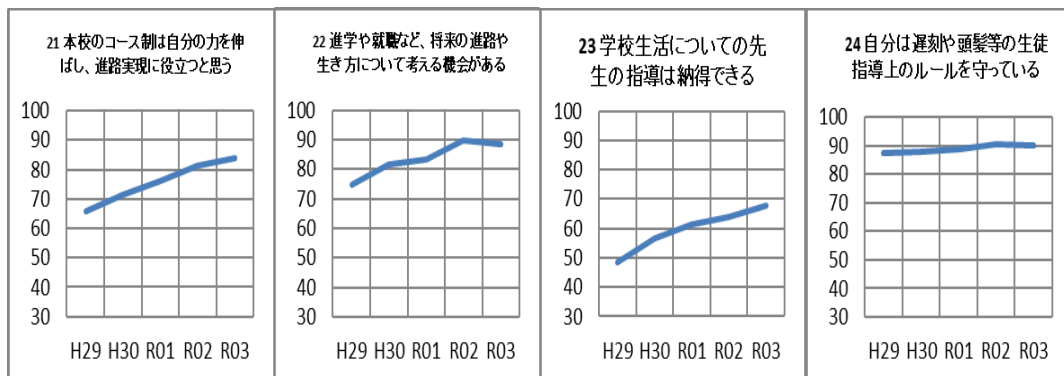
学習に対して、生徒の肯定的な意見が増加しているのに対して、教職員にとっては授業の工夫に課題を感じている。次年度より精密に扱う観点別評価によって、授業内容や評価方法を改善する機会ともなっているため、生徒がより授業を理解し、主体的に学習へと向かう授業を展開できるよう努めていきたい。

また情勢に左右されない学力保障ができるように、引き続き生徒に配付した **Chromebook** の活用を含めたオンライン学習の試行、検討、実践を行う。

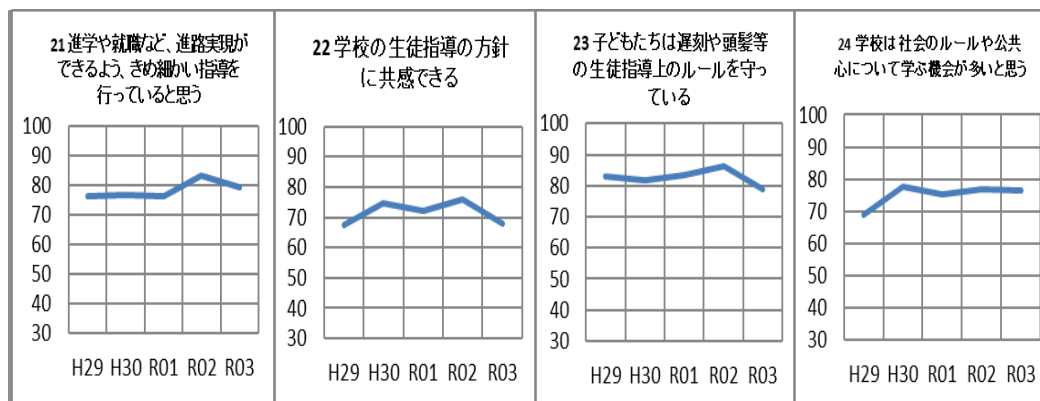
5. 進路指導・生活指導

<評価>

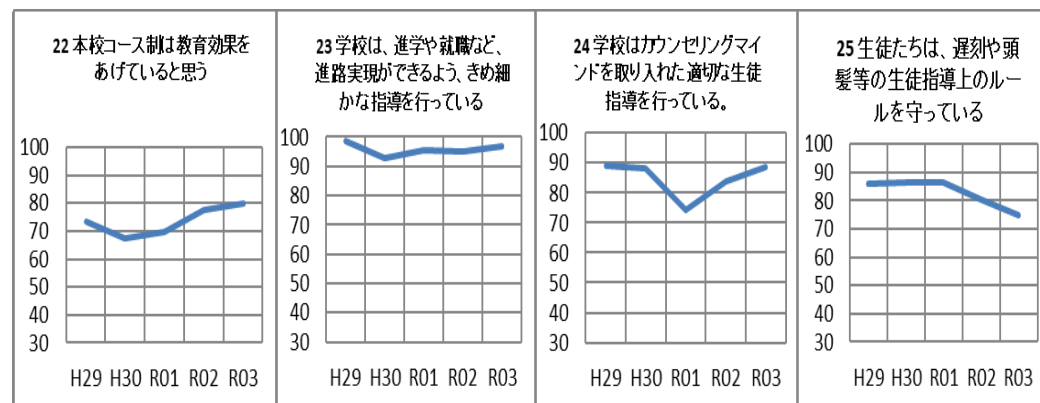
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 83.8%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 88.5%
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる 67.6%
- ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 90.2%



- 保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う 79.1%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 67.9%
- ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 79.0%
- ・学校は社会のルールや公共心について学ぶ機会が多いと思う 76.6%



- 教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う 80.0%
- ・学校は、進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている 96.7%
- ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 88.4%
- ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 75.0%



<分析>

◇進路指導に関する項目においては、生徒・保護者・教員とも数値としては概ね上昇を続けている。特に生徒の「進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある」、教員の「進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細やかな指導を行っている」の項目は、高い水準で推移しており、本校のコース制度が生徒・保護者にもしっかりと浸透し、教員もきめ細やかな指導ができていることを表している。

◇生徒指導に関する項目においては、生徒の「学校生活についての先生の指導は納得できる」67.6%、保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる」67.9%に対して「自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」90.2%となっており、約 22 ポイントの乖離が生じている。つまり、「納得していないが、ルールとして守っている」生徒が 25%前後存在することになる。これまで以上に納得、共感が得られるような指導が必要である。

<重点目標>

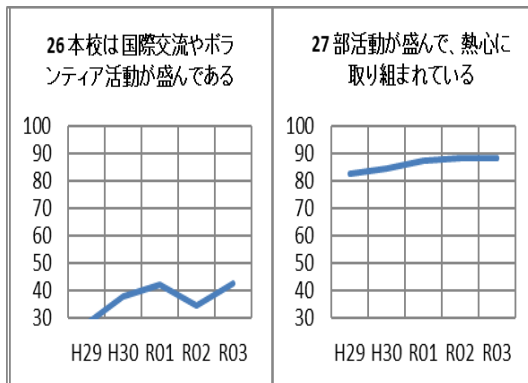
コース制に関しては、平成 30 年度を境に上昇しており、このままコース制度の教育効果を上げていくことが重要である。令和 4 年度入学生より新しいカリキュラムが適用される。社会や生徒の現状を考慮しつつ、3 年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を充実させ、進路実現につながる指導を進めていく。また、体験に関しては、引き続きコロナ禍における実施の方法を模索していく必要がある。

生徒指導に関しては、教職員と生徒の間に意識にも乖離があり、昨年度と同水準で生じている。これを埋めるべく、これまで以上に粘り強く生徒に寄り添った指導を行う。

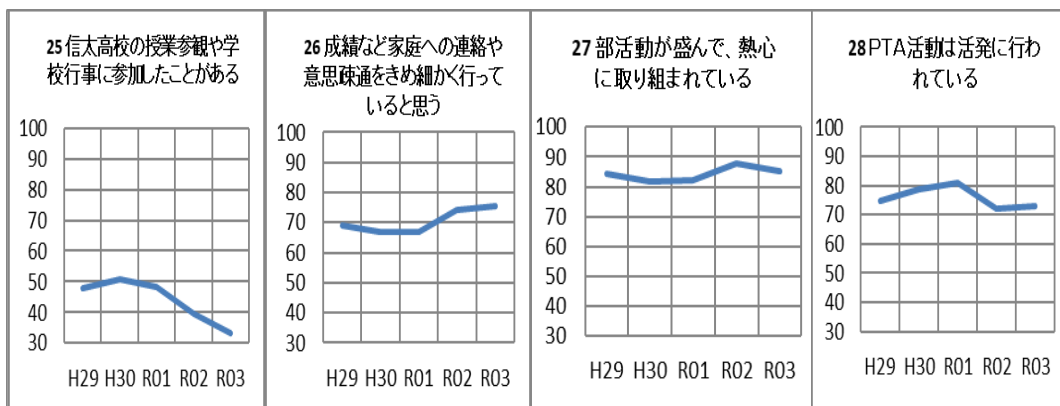
6. 特別活動・その他

<評価>

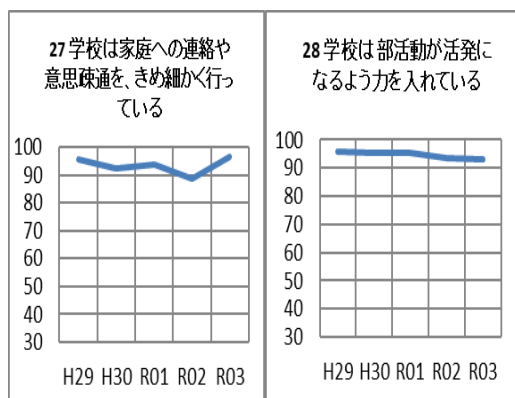
- 生徒・本校は国際交流やボランティア活動が盛んである 42.7%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 88.3%
- ・部活動に入っていますか (運動部 30.2% 文化部 9.9% 両方 0.4%) 全体 40.5%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 33.3%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 75.3%
- ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 85.2%
- ・PTA 活動は活発に行われている 72.8%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 96.7%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 93.3%



<分析>

- ◇部活動に関しては、生徒、保護者、教職員いずれも高い意識をもって取り組み、またその実感があることがわかる。加入率については、昨年同様、半数に満たなかった。
- ◇「家庭との連絡、意思疎通」の項目では、保護者は75.3%に対して、教職員は96.7%となった。両者の開きが昨年度は14.3ポイントと徐々に小さくなっていったが、今年度は21.4ポイントの大きな開きとなってしまった。保護者と教職員の意識に再び大きな乖離が生じている。
- ◇保護者の「本校の授業参観や学校行事の参加したことがある」の項目では、6.1ポイントの減少で過去最低の数値となった。コロナウィルスの影響が原因と考えられる。「PTA 活動」の項目では、0.9ポイントの増加となったが、活動自体は度々延期や中止が相次いだ。

<重点目標>

部活動の加入率の増加をめざし、より一層部活動の活性化を図る。

国際交流やボランティア活動については、生徒会活動等、達成感や成長を実感できるような取組みを進める工夫が必要である。

保護者とは情報提供の内容や頻度について考えながら、メールマガジンやホームページを活用し、共通の認識が持てるようにする。また保護者が公開授業や学校行事に参加しやすい学校となるために、PTA活動や学校行事を充実させる。